

お 知 ら せ

平成 2 9 年 4 月 3 日  
京 都 市 保 健 所  
(担当 健康安全課 222-4244)

### 京都市内で麻しん（はしか）が発生しました

平成 2 9 年 4 月 1 日（土）、京都市内の医療機関から麻しん（疑い）の届出がありました。本市では、直ちに疫学調査等を実施し、本市衛生環境研究所で検査を実施した結果、本日、麻しんと確定しました。

当該患者は、インドネシアへの渡航歴があり、3月23日（木）に帰国後、27日（月）から咽頭痛の症状を呈したため医療機関を受診し、衛生環境研究所で検査を行っていたものです。

本市では、現在、接触者の調査等を実施し、感染拡大の防止に努めています。

なお、本市では、今年度初めての麻しん患者となります。

#### 記

- 1 患 者 男性（南区在住）18歳
- 2 経 過 3月23日（木） インドネシアから帰国  
27日（月） 咽頭痛  
28日（火） 発熱，下痢  
31日（金） 近医を受診  
4月 1日（土） 届出医療機関を受診。発生届受理  
衛生環境研究所で検査  
3日（月） 麻しんウイルスを検出

#### <市民の皆様へ>

麻しんの疑いがあるときは、事前に医療機関に電話で麻しんの疑いがあることを伝え、早めに医療機関を受診してください。また、相談，問い合わせは、医療衛生センター（保健所）まで御連絡ください。

#### 参 考

- 本市の麻しんの過去5年間の発生状況

年 次	市内発生数
平成24年	1名
平成25年	3名
平成26年	4名
平成27年	0名
平成28年	2名

○ 麻疹とは

- ・ 麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる感染症で、感染性が非常に高く、今まで麻疹にかかったことのない人や麻疹のワクチンを接種したことのない人が麻疹ウイルスに暴露されると、ほぼ100%感染すると言われています。
- ・ 感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染です。
- ・ 感染すると、約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます（前駆期）。その後、一旦熱が下がるが、再び高熱が出て顔・首・全身に麻疹が現れ4～5日間続きます（発疹期）。発熱はおさまり、麻疹は色素沈着を残して消退します（回復期）。
- ・ 麻疹は感染力が強いため、手洗い、マスクでは予防できません。麻疹を予防するためには、麻疹ワクチンの接種が有効です。
- ・ 麻疹を疑う症状がある場合は、早めに医療機関を受診してください。